

歯科保健目標

健康日本21（第2次） 平成25年度から10年後に目指す姿

1. 口腔機能の維持・向上
60歳代における咀嚼良好者の増加 80%
2. 歯の喪失防止
 - (1) 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 50%
 - (2) 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 70%
 - (3) 40歳で喪失歯のない者の割合の増加 75%
3. 歯周病を有する者の減少
 - (1) 20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少 25%
 - (2) 40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少 25%
 - (3) 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少 45%
4. 乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加
 - (1) 3歳児でう蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加 23都道府県
 - (2) 12歳児の一人平均う歯数が1.0歯未満である都道府県の増加 28都道府県
5. 歯科検診の受診者の増加
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加(20歳以上) 65%

健康いわて21プラン(第2次) 2014年度を初年次とし2022年度を目標年次とする

1. 3歳児でむし歯がある者の割合の低下 13%
2. 3歳児でむし歯のある者の割合が30%以上である市町村の減少 3箇所
3. 12歳児でむし歯がある者の割合の低下 28%
4. 12歳児の一人平均むし歯数が1歯以上である市町村の減少 6箇所
5. 20・30歳代で歯肉に炎症所見がある者の割合の低下 25%
6. 40・50歳代で進行した歯周炎がある者の割合の低下 44%
7. 30・40歳代で喪失歯がある者の割合の低下 25%
8. 60歳代で進行した歯周炎がある者の割合の低下 53%
9. 60歳で24歯以上自分の歯を有する者の割合の向上 60%
10. 80歳で20歯以上自分の歯を有する者の割合の向上 40%
11. 60歳代における咀嚼良好者の割合の向上 80%
12. 成人期及び高齢期で定期的に歯科健康診査(検診)を受けている者の割合の向上 50%

第2次もりおか健康21プラン(平成27年度から36年度の10年間)

1. 3歳でう歯がある児の割合を下げる 13%
2. 60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合を上げる 70%
3. 80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合を上げる 50%
4. 過去1年以内に歯科検診を受診した人の割合を上げる 65%